

令和3年産

大豆情報 (Vol.2)

令和3年8月12日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



7月以降の気象経過

<7月> 気温は高く、日照時間は多く

降水量は多い

7月の平均気温は平年より+1.4℃高く、日照時間は平年比122%と多く、降水量は台風8号が上陸したことも影響し、平年比110%と多くなりました。

<8月上旬> 日照時間は多く、降水量は少ない

日平均気温は平年差+2.4℃と高く、日照時間も平年比123%と多くなり、降水量は平年比74%と少なくなりました。

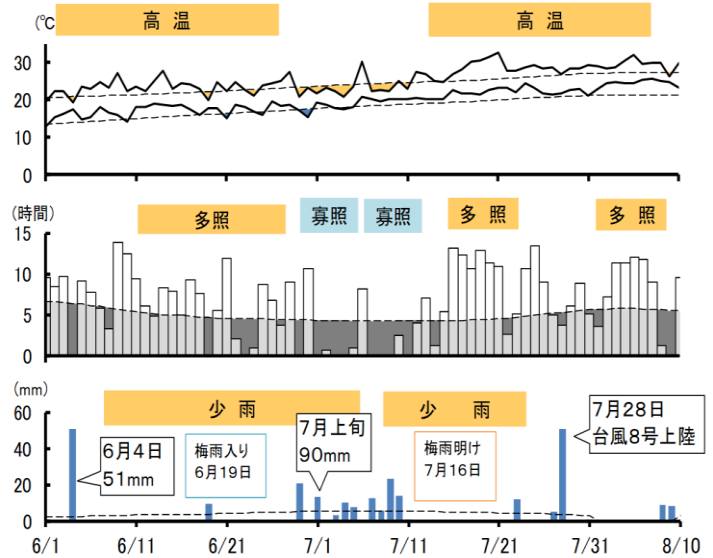


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温, 中: 日照時間, 下: 降水量

※点線は平年値

調査ほの生育状況(8/10)

生育量は多い傾向

タンレイ(水沼) 6/10播種



栽植密度 16.6本 m

ミヤギシロメ(小船越) 6/9播種



栽植密度 12.4本 m

タンレイ(広瀬) 6/11播種



栽植密度 14.9本 m

ミヤギシロメ(牛田) 6/7播種



栽植密度 14.9本 m

タチナガハ(蛇田) 6/1播種



栽植密度 12.7本 m

表1 調査ほの開花期と8月10日調査結果(広淵, 蛇田, 牛田は8月6日調査結果)

品種(作型) 地点名(旧市町)		播種日 (月日)	開花期 (月日)	栽植密度 (本/m ²)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数	
							(本/本)	(本/m ²)
タンレイ (普通) 広淵(河南)	本年	6/11	7/28	14.9	52.2	12.8	2.2	32.3
	前年差・比	+3日	-5日	90%	-15.7	-1.5	+0.2	99%
	平年差・比	-4日	-8日	102%	-1.1	-0.2	+0.3	120%
タンレイ (麦あと) 水沼(石巻)	本年	6/10	7/29	16.6	81.4	13.8	3.0	49.1
	前年差・比	-3日	±0日	101%	+26.3	+1.4	+0.7	133%
	平年差・比	-3日	-3日	118%	+24.8	+1.3	+0.5	141%
タチナガハ (麦あと) 蛇田(石巻)	本年	6/01	7/26	12.7	59.8	14.0	2.1	27.0
	前年差・比	-18日	-13日	91%	+13.9	+2.1	+0.0	91%
	平年差・比	-15日	-10日	105%	+12.8	+1.6	+0.2	122%
ミヤギシロメ (麦あと) 小船越(河北)	本年	6/09	8/05	12.4	79.0	14.1	3.3	40.8
	前年差・比	+4日	-4日	120%	+17.4	+0.8	+0.0	121%
	平年差・比	-13日	-8日	128%	+28.7	+2.4	+0.9	177%
ミヤギシロメ (麦あと) 牛田(桃生)	本年	6/07	8/07	14.9	78.3	13.2	1.5	23.0
	前年差・比	-9日	-7日	86%	+10.7	+1.5	-0.5	65%
	平年差・比	-15日	-7日	122%	+26.6	+2.1	-0.2	107%

※1 平年差・比：H28～R2の5か年平均(平年値)との差・比。

※2 「-」は早い, 短い, 少ない, 「+」は遅い, 長い, 多いを示す。

◆主茎長は平年よりも長い傾向です。

※広淵(河南)タンレイは主茎長が平年を下回っていますが, これは, 令和2年は生育が旺盛であったため, 平年値(過去5か年の平均値)が大きくなっていることが影響したものです(令和2年の値を除いたH27～R1の平均値は51.1cm)。

◆主茎節数は概ね平年並～平年を上回って推移しています。

◆m²当たり分枝数は概ね平年並です。

◆開花期は, 播種時期が早いことから平年よりも早い傾向です。

今後の管理

◆病害虫対策

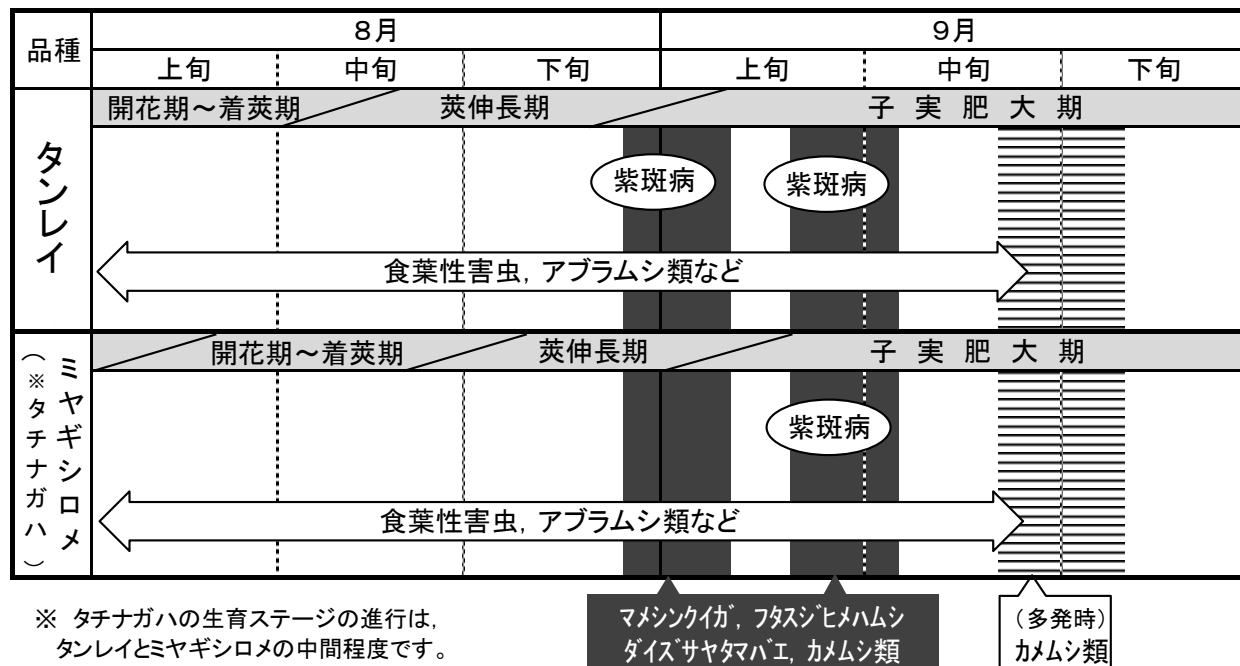


図2 主要病害虫の防除体系例

○ 紫斑病 …> 開花期の20～40日後に防除

「タンレイ」は紫斑病抵抗性が「やや弱」なので、2回の防除を徹底し、**1回目は開花期後25日頃**、**2回目は開花期後35日頃に防除を実施**しましょう。

品種	開花期	7月			8月						9月																				
		…	中旬	…	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
タンレイ	8/01																														
	8/05																														
	8/10																														
	8/15																														

<参考> ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果

(宮城県「普及に移す技術」第95号(令和2年度))

ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果として、プランダム乳剤25がアミスター20フロアブルと同等の効果が得られることが確認されました。

特に紫斑病の発生が多い「タンレイ」については、適期防除と剤の選定が重要となります。

※タンレイほ場にて開花31日後及び37日後の2回散布した試験結果
 ※耐性菌発生リスクがあるため、**同一剤の連用は避けましょう。**

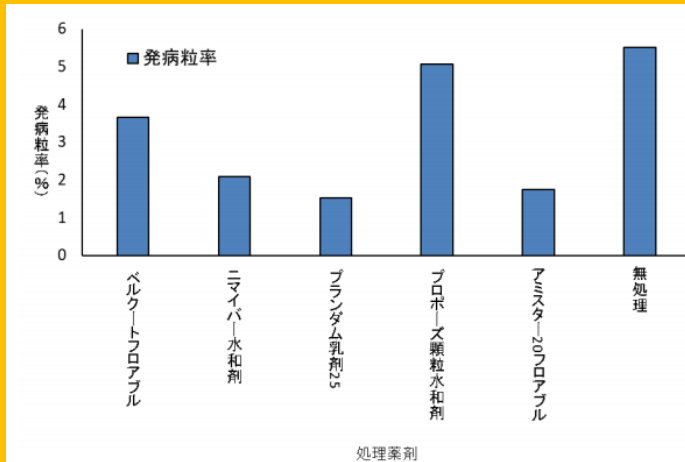


図2 供試した薬剤の発病粒率

○ 子実害虫

☆ マメシクイガ …> 8月末～9月上旬に1回目、その7～10日後に2回目の防除

今年の発生量は「やや少」の予想ですが、連作4年以上のほ場や多発ほ場では防除が必要です。

※ アグロスリン乳剤、プレバソンフロアブル5は1回防除で高い防除効果の報告があります。
 宮城県のダイズ主要病害虫のIPM体系に関する研究 3. フタスジヒメハムシとマメシクイガの同時防除(2011)、
 宮城県「普及に移す技術」第94号(平成30年度)ダイズのマメシクイガに対するフルキサメタミド乳剤およびクロラントラニリプロール水和剤の防除効果より

☆ カメムシ類 …> 8月下旬～9月上旬に防除、多発時は9月中旬～下旬に追加防除

発生量は「やや多」の予想です。マメシクイガと同時期の防除が基本ですが、多発時には、9月中旬～下旬に追加防除しましょう。



○ 食葉性チョウ目幼虫

食害葉面積20%(右写真)を目安に防除しましょう。

○ ジャガイモヒゲナガアフラムシ

例年8月下旬～9月上旬が発生のピークです。

葉の黄化・褐変が見られたら葉の裏を確認し、発生量が多い場合は早めに防除しましょう。

○タンレイ

▶紫斑病対策を最優先

○ミヤギシロメ・タチナガハ

▶マメシクイガやカメムシ類等の防除を優先

◆雑草対策

◎ タデ類、シロザ、アメリカセンダングサ、イヌホオズキ等の雑草が収穫時に残っていると汚粒の原因となるため、非選択性除草剤の畝間散布(雑草草丈約15cmまで)や手取りで除草を行いましょう。

◎ 9月以降、多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリ、アサガオ類等の難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょう。

「大豆作における難防除雑草アレチウリの対策」(普及に移す技術第90号)に詳しいアレチウリの防除対策が掲載されています。

※ アレチウリは‘外来生物法’によって「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動させることが禁止されています。防除を行う際にも、生きた植物体(発芽可能な種子も含みます)を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意して下さい。

◆湿害対策

◎ 大雨のあとや、降雨が続く際はほ場を見回り、**排水が保たれているか確認**しまししょう。



◆乾燥対策

◎ 大豆は開花期以降、大量の水を必要とします。土壌の過乾燥は、落花・落莢による減収の原因となるので、**晴天が7日以上続いて土壌が白く乾燥し、日中の葉の反転(右下写真)が半分以上となるような場合には、畝間かん水や暗きょの水閘(こう)を閉じる**などの対策が必要です。

※ 莢伸長期～粒肥大期(開花後11～42日)にかん水すると、稔実莢数が多くなり、莢先熟株の発生を抑止できるとの報告あり(富山農技セ)。

1か月予報 (8/14~9/13)

仙台管区气象台 8月12日発表

**期間のはじめは、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
その後は、天気は数日の周期で変わるでしょう。**

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

【気温】 10 30 60

【降水量】 20 30 50

【日照時間】 40 40 20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

○週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目 20 50 30

2週目 10 30 60

3~4週目 20 30 50

■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

令和3年8月1日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。

使用回数は薬剤の使用回数を示しています。農薬使用の際には薬剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。農薬使用に先立ち、ラベルの表示事項を必ず読み、安全使用上の対策等について確認してください。